

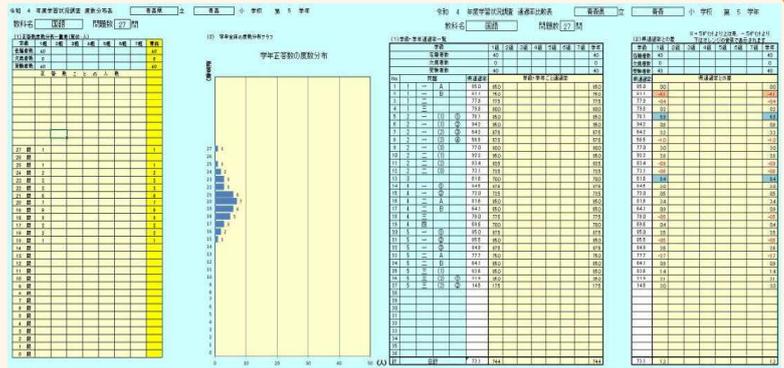
～児童生徒の「確かな学力」の育成に向けたさらなる授業改善を～

# 学習状況調査及び報告書の活用について

## 「授業改善を推進するために」

今年度の調査では、集計表に「度数分布」や「自校の結果と県通過率の比較」のシートが付いています。自校の結果を入力すると自動計算されます（県の平均通過率は入力する必要があります）。

シートを活用して設問ごとの通過率を基に、授業改善のための自校の課題について検証するなど、分析ツールとしてお役立てください。



## 「報告書には授業改善のための指導例があります」

報告書には、各教科の分析結果や、そこから見えてきた課題に加え、課題解決のための指導例を各教科とも2例掲載しています。また、この指導例は、学習指導要領で示されている「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を意識したものとなっています。各教科での活用はもちろん、校内研修等で共有を図るなど多様な方法での活用が考えられます。そのためにも、ダウンロードして、いつでも活用できるようにしてははいかがでしょうか。

**指導例**

複数の資料から得られた情報を関連付け、自分の考えを表現させる指導  
～単元名「きょう土の伝統・文化と先人たち」(第4学年)～

【指導の流れ】  
複数の資料から読み取ったことを関連付けて考え、人々の生活の変化を文章でまとめる。  
【学習活動】  
年表とグラフの二つの資料から分かることを読み取り、グラフに書き込む。  
① 年表の完成後、人々の生活はどのように変わったのでしょうか。  
② まずは、郡野原にあった、西郷道野村の人口のうっつきあわりを見てみましょう。

資料1 西郷道野村の人口のうっつきあわり  
① 年中、年間別  
② 1855年、1885年、1888年に人口が増えているね。  
③ 1825年から1888年を見ると、人口が2倍以上増えて、約400人になっています。  
④ 用兵が完成して水が手に入るようになったから住む人が増えたのかな。年表と合わせて見てみたい。

資料2 郡野原水が流れるまでの年表  
① 1880年 郡野原と大島が中心になり、郡野原に農業の本拠地が移転して、水が流れる。  
② 1882年 郡野原の水が流れる。

③ 飲み水の水源地は1881年に工事が始まり1882年に終わりました。

**指導例**

共有した考え方を活用して、発展的な課題を自力解決させる指導の工夫  
～単元名「文字と式」～

【指導の流れ】  
1. マッチ棒を並べて三角形を作るとき、三角形をn個作る時に必要なマッチ棒の本数を求める式を考え、交流させる。  
【学習活動】  
三角形をn個作る時に必要なマッチ棒の本数を求める式を発表し合い、式の違いを共有する。

図のように、左側から右側に同じ長さのマッチ棒を並べて三角形を作ります。三角形をn個作る時に必要なマッチ棒の本数を求めます。

マッチ棒を並べてできる三角形の個数と、マッチ棒が何本ずつ増えているかを着目して考えてみましょう。

① 左側に三角形1個分の3本あります。そして右側の形は2本ずつ増えていると考えました。②の個数は、三角形の個数より1個少ない(n-1)個となるので、増えた本数は(n-1)本となります。だから、式は、3+2(n-1)③です。

④ 左側の辺1本と、②の形が三角形の個数n個と同じ分できると考えました。だから、式は、1+2n④です。

鏡を見る立場が鏡の裏の面の方で見るけど、鏡と像の位置関係はどのような関係があるのだろうか。

では、鏡に映る像の位置関係を詳しく確認してみよう。

【実験方法】  
① 鏡を縦向きに立て、鏡の裏面に紙を貼る。  
② 鏡の裏面に紙を貼る。  
③ ハーフミラーは、透明なフィルムに半透明フィルムを貼り付けて作製することもできる。  
④ ハーフミラーは透けて見えるので、物体を鏡や中央に置いて、鏡の像と物体をお互い合わせよう。  
⑤ ハーフミラーの裏面に紙を貼る。⑥ ハーフミラーを通して見る物体の位置と、④と同じ⑦ 裏面から見て、2つの物体の位置関係を確認する。

鏡の裏面に紙を貼ると、物体と鏡の位置関係を確認することができました。

報告書は県教育委員会のホームページからダウンロードできます。  
掲載先は<https://www.pref.aomori.lg.jp/soshiki/kyoiku/e-gakyo/jyoukyouchousa.html>です。  
指導例は県総合学校教育センターのホームページ (<http://www.edu-c.pref.aomori.jp>) からダウンロード可能です。

## 「各学校ではこんな活用をしています」

調査や報告書の活用に工夫して取り組んでいる学校があります。自校では、どのような取組が有効か組織的に検討し、できることから取り組んでみませんか。

- 以下は令和3年度に実施した学習状況調査の活用アンケートの回答からの抜粋です。
- 【小学校】**
- 実施報告書の「指導例」を活用したことで、授業改善につながった。
  - 通過率が低い問題に係る単元を、重点指導項目として年間指導計画にマーキングするなどして、意識化を図った。
  - 校内研修で、本調査結果と他の学力調査結果を合わせて分析し、各学年の学習内容における自校の課題を共通理解して児童への指導に役立てた。
- 【中学校】**
- 教科部会で到達率の低かった問題について分析し、今後の授業改善に生かしていくことを共通理解した。
  - 分析結果を受け、生徒に対して、各教科の数値的に落ちている分野を補充的な課題を用いて、個別指導を行った。
  - 小中連携会議で双方で行った分析結果を情報交換することで、児童生徒のつまづきを確認することができ、指導に役立てることができた。